

2023年8月10日

株式会社 いちい

NTT東日本 福島支店

青葉学園の子どもたちへの「完全閉鎖循環式陸上養殖ベニザケ」を加工した フィッシュバーガーの提供について

東日本電信電話株式会社 福島支店(支店長 畠山 良平、以下 NTT 東日本 福島支店)と株式会社いちい(代表取締役社長 伊藤 信弘)は、過日発表した「好適環境水®を用いた完全閉鎖循環式陸上養殖」により育てたベニザケを加工・商品化したフィッシュバーガーを社会福祉法人「青葉学園(施設長 黒沢 俊之助 様)」の子どもたちに社会貢献活動の一環として提供いたします。

毎年この時期に青葉学園で開催される『夏のおたのしみ会』に合わせ、NTT 東日本福島グループの社員有志で構成された「電電ありの実会」からスイカや花火などを寄贈、支援していることに、株式会社いちいに賛同いただき、共同で社会貢献活動の一環として試食を兼ねた食育の一助となるよう実施するものです。

記

1. 提供日時

2023年8月14日(月) 11:45 ~

※株式会社いちい、NTT 東日本 福島支店の代表社員により、11:45 頃から青葉学園の子どもたちへ手渡しにより配布いたします。

2. 提供先

「青葉学園」〒960-2152 福島県福島市土船字新林 24 番地

3. 提供者

株式会社いちい(代表取締役社長 伊藤 信弘)

NTT 東日本 福島支店(支店長 畠山 良平)

4. 提供内容

ICHII'S ロシナンテ MARKET 特製 フィッシュ(ベニザケ)バーガー 40個

<参考資料1>

好適環境水[®]を用いた完全閉鎖循環式陸上養殖の概要

株式会社いちい、学校法人加計学園 岡山理科大学、NTT 東日本は、2022年1月より「完全閉鎖循環式陸上養殖のビジネス化に向けた実証実験^{※1}」を実施し、2023年7月に世界初となるベニザケの陸上養殖の成功を発表、いちい店舗における試験販売^{※2}を行い、福島県内外から大きな反響を頂きました。現在、販売を通じたマーケティング活動等を通じて、本格的な事業化に向けた検討を実施しております。

※1 好適環境水[®]を用いた完全閉鎖循環式陸上養殖ビジネス化に向けた実証実験の開始（2022年1月20日発表）

https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/20220120_01.html

※2 「好適環境水[®]を用いた完全閉鎖循環式陸上養殖ビジネス化に向けた実証実験」の成果報告

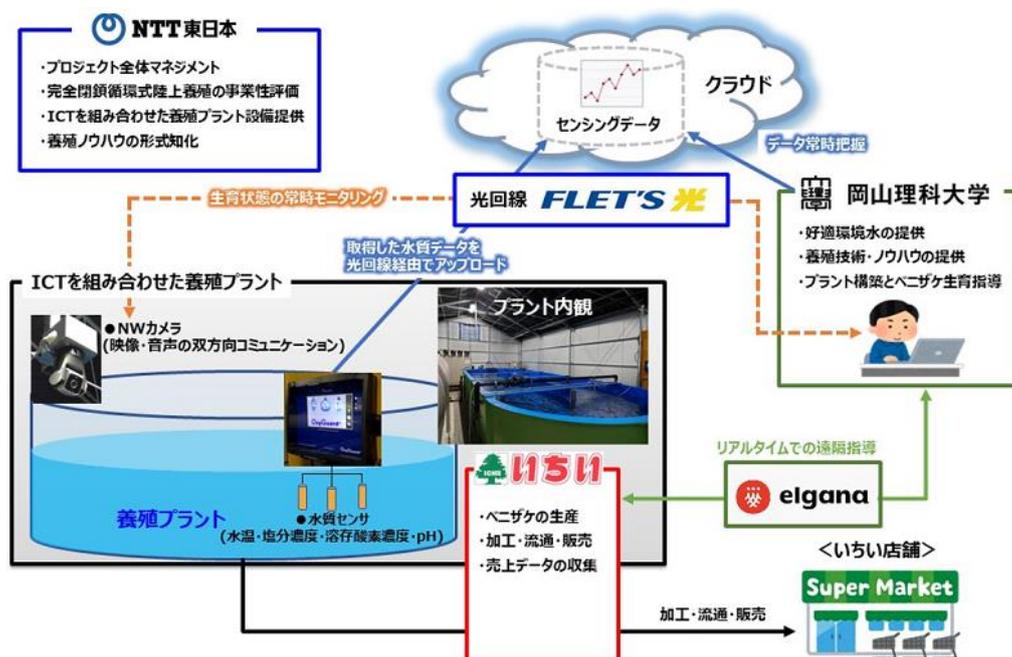
～世界初となる「ベニザケ」養殖の成功と、いちい店舗での試験販売を実施～（2023年7月20日発表）

https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/20230720_01.html

具体的には、岡山理科大学保有技術の好適環境水[®]※3・養殖ノウハウと養殖プラントシステム、NTT 東日本グループの持つICTを組み合わせることで、ベニザケ生育速度の向上、生産に関わる作業の効率化・最適化・自動化、陸上養殖に最適な設備構築を実施し、生産段階のみの評価では終わらせず、水揚げ後の加工・流通・販売における評価も福島県内のいちい店舗での販売を通じて、トータルバリューチェーン全体の観点からビジネス化に向けた評価・検討を行いました。

※3 水産生物の効率的な陸上養殖を目的として開発された人工海水。海水中に含まれる成分のうち、魚の成長に必要なナトリウム・カリウム・カルシウムに絞り込んで構成されています。塩分濃度も海水よりも低く調整されており、魚の浸透圧調整に関わるストレス軽減・消費エネルギーの削減が見込まれ、浸透圧調整に使っていたエネルギーを成長に回せることで、一部の魚類で成長促進されることが確認されています。

<具体的なイメージ>



<参考資料2>

「NTTふくしまボランティアグループ 電電ありの実会」とは

吾妻山の麓、福島市土船に青葉学園という養護施設があります。青葉学園は「児童は家庭的な環境の中で養育されるべきである」という創立当初の理念を継承し、入所児童の養護と自立支援を目的としている児童養護施設で、幼児から18歳までの約35名が生活しています。

1946年(昭和21年)、戦災孤児の収容施設として茂庭村(当時)に創設され、現在地には1953年(昭和28年)に移転しました。当時は、加入区域外のためなかなか電話が設置されず、子どもたちが急病の時など本当に困っていましたが、1961年(昭和36年)2月16日に待望の電話が開通しました。開通工事は、福島電報電話局(当時)の職員の手で行われ、吾妻おろしの猛吹雪の中、23本の建柱工程を僅か3日間で完成しました。長い間待っていた電話なので、工事中は年上の園児も何かと電話局職員に気をつかうなど、微笑ましい交歓がありました。これがきっかけとなり電話開通の記念に学園に日用品・衣類を贈ったのが青葉学園園児との付き合いの始まりです。5月の節句に鯉のぼりを贈り、クリスマスにはプレゼントを贈るなどしているうちに、これを善意の会として組織することとなり、1962年(昭和37年)10月の電電記念日に当時の水尾安彦通信局長から善行表彰されたのを機会に「電電ありの実会」が結成されました。

「ありの実」とは“梨の実”のことで、青葉学園は福島名産の梨畑に囲まれ、秋には甘い香りがして、ほのぼのとした愛情につつまれているような環境にあることから、この名前を付けたとされています。結成当時の会員は415名でした。1963年(昭和38年)6月、青葉学園の創立記念日に会員はじめ局内の絵画サークル「画楽多クラブ」や関係者の働きかけによって、貨車兼用の自動車「たんぼぼ号」を贈呈しました。全国からも、種々の形で厚意が寄せられたと記録(当時の新聞、テレビ、ラジオで大々的に報道された)に残されています。

本活動に対しては、2006年(平成18年)9月16日の青葉学園創立60周年記念式典、及び2016年(平成28年)10月8日の青葉学園創立70周年記念式典で感謝状をいただくとともに、2007年(平成19年)11月6日には第9回福島市社会福祉大会で会長より表彰状を授与されています。「電電ありの実会」は、先輩の意志を受け継いで着実に現在まで歩み続けてきています。年間を通して定期的に訪問・激励・寄贈を行っています。現在の会員数は約500名で、先輩の灯した善意の灯を絶やすことなく、自然に広がる形で、発展させていきたいと願っています。(2023年8月)